

令和元年度事務事業評価シート(平成30年度実績)

◎基本情報

事務事業名		アジア初演「なると第九」ブランド化プロジェクト推進事業		担当部署	市民環境部 文化交流推進課 企画総務部 戦略企画課 教育委員会 学校教育課		
総合計画体系				根拠法令計画など	なし		
基本政策(大項目)	1	うきうき 活力と魅力あふれる まちづくり	事業期間	開始	平成	▼	25 年度
政策(中項目)	2	伝えたい 魅力あふれるまち なると					
(小項目)		シティプロモーション					
施策	2	シティプロモーションの推進		終期	~平成30年度 ▼		
基本事業	1	「鳴門ブランド」の戦略的な推進					

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 市内外						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	1918年6月1日、板東俘虜収容所において、ドイツ兵捕虜がアジアで初めてベートーヴェンの「第九」交響曲を演奏した。またこれを記念し、昭和57年から市民による「第九」の演奏会が続けられている。こうした国内外に誇るべき背景を持つ「なると第九」をブランド化することで、市内外へ周知・啓発を進め、交流人口の拡大を図る。						
事業計画	30年度に何を計画していたか	①「なると第九」に関する観光産業化を推進 ②将来の「なると第九」を担う次世代の育成 ③「なると第九」を市内外に周知啓発PRの促進 ④「第九」演奏会及び関連行事の実施						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	単位
		ドイツ館周辺への来訪者数	75,250	85,250	87,000	90,000	90,000	人

◎実施結果(DO)

事業実施内容	30年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	①観光産業化推進(収容所周辺ウォーキングイベント開催・メディア放送等) ②次世代育成(小学校「なると第九」現地学習・合唱講習、ジュニア演奏会実施) ③啓発PR(巡回パネル展開催、県内外イベントでのPR活動、広報啓発グッズの作成配布、メディアを活用した広報活動、美術工芸展覧会の再現等) ④「第九」演奏会及び関連行事の実施(100周年記念演奏会、よみがえる「第九」演奏会、アフター交流会等)						
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> その他						
指標名		29年度実績	30年度実績	元年度目標	2年度目標	3年度目標	単位	
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1 俘虜収容所跡地周辺施設改善箇所数(延べ)	14	14	14	14	14		
	2 「なると第九」講習を受けた市民の数	1,066	1,104	1,000	1,000	1,000		
	3 PRイベント実施回数	24	51	20	20	20		
	4 「第九」演奏会関連行事実施回数	6	10	5	5	5		
成果指標 対象にどのような効果があったかを示す指標	ドイツ館周辺への来訪者数	82,829	81,417	—	—	—	人	
	目標達成率(実績/目標)		95.5	—	—	—	%	
今年度の進捗状況	ほぼ計画どおり		事業全体の進捗状況			計画どおり		

(千円)

財源内訳	平成30年度	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
			当初予算額	12,000	0	0	21,204	16,769	49,973
			補正予算額	3,993	0	0	0	△ 3,993	0
			繰越予算額	0	0	0	0	0	0
			全体予算額	15,993	0	0	21,204	12,776	49,973
			決算額	15,807	0	0	20,900	8,299	45,006
		繰越額	0	0	0	0	0	0	
		人件費	正規職員(7,321千円/人)	臨時職員(2,125千円/人)	総人件費		総事業費		
			4.5	1.0	35,070		80,076		

【鳴門市行政評価】

【事務事業名：アジア初演「なると第九」ブランド化プロジェクト推進事業】

事業費推移	年度	29年度決算	30年度決算	元年度	2年度	3年度
	事業費	21,438	45,006	9,378	6,400	6,400
	うち一般財源	11,327	8,299	3,842	3,842	3,842
	人件費	27,811	35,070	14,642	14,642	14,642
	総事業費	49,249	80,076	24,020	21,042	21,042

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		施設ごとに利用者数の増減が見られたが、目標に近い数値を達成することができた
	効率性	A:効率的だった		事業量が増加する中限られた人員と予算で対応した
②成果に対する評価	指標名	ドイツ館周辺への来訪者数		目標に達しなかったものの、ほぼ近い実績となったため
	目標	85,250	人	
	実績	81,417	人	
	評価	B:概ね目標を達成できた		
③総合的な評価		B		項目①②のとおり

◎今後の方向性(ACTION)

課題	平成30年度は「第九」アジア初演100周年の年であり、プロジェクトの最終年となったが、今後も対外的に「なると第九」のブランド化を進めていく。今年度も、「第九」100周年継承事業講演会や松江豊寿氏の功績を顕彰する目的で、シンポジウム等を実施していく予定である。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	R1年度	①松江豊寿顕彰シンポジウム(松江豊寿氏の功績を顕彰し、後世に引き継いでいくためのシンポジウムを開催) ②「第九」演奏会関連事業(第九交響曲演奏会、「第九」アジア初演100周年記念継承事業講演会) ③「なると第九」次世代育成事業(教育旅行誘致、第九合唱発表会、絵本読み聞かせ講演会、小学生合唱指導及び現地学習)など ④「なると第九」啓発事業(「第九」アジア初演100周年記念誌製作など)			
	R2年度				